

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2792300036		
法人名	桂商事株式会社		
事業所名	グループホーム 文の里(2F)		
所在地	大阪府大阪市阿倍野区文の里4丁目21-23		
自己評価作成日	平成30年4月	評価結果市町村受理日	平成30年10月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JirvosyoCd=2792300036-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成30年6月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の近くに商店街やスーパーがあるので、外出の機会を多く作り、地域にだけこだわらず施設運営を目標にしています。開設から9年がたち色々な地域とのかかわり方ができ始めてきたと思うので、より「阿倍野区の文の里にはグループホームがあるんだよ」と知ってもらえるような啓発活動を行い、町ぐるみで高齢者を支えていけるような運営に力を入れたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は、日々利用者との関わり合いを大切に利用者個々の思いや希望を汲み取り、好きな食べ物を近隣の商店に買いに出掛けたり飲食店に行き外食を楽しんでもらう他、家族との墓参りや法事の外出の際には職員も協力する等、個別での外出支援に力を入れて職員間で協力しながら取り組んでいます。利用者も包丁を使い材料を切ったり味付け等出来ることに携わりながら事業所で食事を作り、希望を聞きその日にメニューを変更したり、カステラ等のおやつを手作りする等、毎日の食事が楽しいものとなるように工夫しています。家族会を年2回実施し、面会の際にも利用者の普段の様子を伝えて多くの意見を得られるように配慮し、得られた意見を運営やサービスの向上に繋げています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念について、スタッフと話し合いを持ち確認している。	事業所開設時に法人の理念を基に職員間で話し合っ て作った独自の理念をエレベーターホールに掲 示し意識付けしています。職員の入職時に理念 に込められた思いを説明すると共に、利用者が のんびり楽しく暮らせるよう職員から得た業務 改善についての提案に取り組んだり、日々の職 員への指導を通じて理念の実践に繋げていま す。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けら れるよう、事業所自体が地域の一員として日常 的に交流している	ほとんど外出の機会がなくなってしまってい る。	散歩の時の近隣の方への挨拶や、町内会に加 入し回覧板や運営推進会議で地域の情報をも らい利用者や近くの会館で行われる催し等に 参加しています。地域の中学校から生徒の来 訪によりコーラスの披露を楽しんだり、毎年 事業所で餅つきを実施する際には近隣の方 にも参加してもらおう等、地域との交流を深 めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知 症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に 向けて活かしている	地域包括支援センターと共同で年に1回程 度で地域の方に向けてグループホームとは 何かをお話する機会を設けています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際 、評価への取り組み状況等について報告や話 し合いを行い、そこでの意見をサービス向上 に活かしている	2ヶ月に1回に運営推進会議を開催してい ます。	会議は2か月に1回地域福祉コーディネーター や地域包括支援センター職員等の参加の下 開催し、活動報告や利用者の状況伝達、事 故報告等を行い意見交換をしています。地 域の行事の情報をもらい可能なものには参 加したり、感染症等について対策を話し 合う等、会議を運営やサービスに活かして います。	家族の会議への参加が得られていない状 況です。会議について理解が得られるよ うに説明したり参加を呼び掛け、実際に 参加が得られることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事 業所の実情やケアサービスの取り組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	文の里クラブの方や地域包括支援センター の方々とは協力関係を築けていますが、直 接市町村の方とは面識はほとんどありませ ん。	運営上の報告で役所に訪問したり、不明点 を法人を通じて行政に確認しています。法 人の担当者がグループホーム連絡会に参 加して行政職員から情報を得たり意見交 換をしています。市の集団指導への参加 や、行政から研修の案内が届き、可能 なものには参加することで行政との関係 構築に努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着 型サービス指定基準及び指定地域密着型 介護予防サービス指定基準における禁止 の対象となる具体的な行為」を正しく理 解しており、玄関の施錠を含めて身体拘 束をしないケアに取り組んでいる	日々の介助の中で、身体拘束になっていな いかをスタッフ全員で確認をしています。	年2回それぞれ法人と事業所で身体拘束に 関する研修を実施し、不参加の職員へは 資料を回覧して内容を周知しています。言 葉かけによる制止等、不適切な対応が見 られた時は個別や会議時に全体に注意し ています。家族の同意でセンサーを使用 している方がいますが安全に移動できる よう支援し、エレベーターは施錠してい ますが外出希望の利用者には出来るだけ 職員が寄り添って外出し閉塞感の無い支 援に努めています。	

グループホーム 文の里(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を定期的に行っており、虐待に関しての勉強会は行っています。防止になるようにスタッフへのストレスケアも行うようになっています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修で定期的に勉強会を行っていますが、新人スタッフが多いので徹底はできていません。入居者様の後見人様とは友好的な関係を築けていると思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な話し合いを実施し、契約後も不安や疑問点には迅速に対応できるように心掛けています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常にご意見・ご要望があれば話してもらうように声かけさせていただきながら、定期的に家族会を開催して意見交換の場を作っております。	利用者からの希望や要望は日々の関わりの中で聞き、家族からは年2回実施する家族会や日々の面会時に随時聞くように努めています。利用者の希望により個別で法事や祭りに出掛ける等の個別の支援に取り組んだり、家族の要望により事故などの情報公開を家族会で行う等、意見を運営やサービスの向上に反映しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常にスタッフの意見を聞くように努めて、できることは実践するように努めています。	基本的に毎月1回実施する全体会議や日々の中で随時職員から意見を聞いています。意見から利用者の生活や身体状況に合わせて職員の業務の時間配分を変更したり、食事の提供方法を工夫する等、意見をサービスや運営に反映しています。また年2回実施する人事考課の際の個別面談や随時職員の様子を見て声をかけて出来るだけ多くの意見を聞くように努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	環境整備に努めている最中です。目標を持って仕事をしてもらえるようになっています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同じ法人内で勉強会を行っている。外部の研修なども必要に応じて参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ほとんど行っていない		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初の不安な部分を取り除いて入所できるようにご本人様から発せられた言葉を大事にしてお話を伺っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様にはお話をさせていただく機会をつくりご意見を常にお伺いできるような関係を築いていきたい旨を最初にお伝えしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様家族様にはお話をさせていただく機会をつくりご意見を常にお伺いできるような関係を築いていきたい旨を最初にお伝えしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常にご本人様ともお話をさせていただくようにして意見をお伺いしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様とも昔の生活歴をお伺いしながら、「したいこと」「したかったこと」と実現できるように、お話をきくようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所の方が入居になった場合はそうしていますが、大阪市内となると幅広いので現実的に無理な方が多いのが現状です。	親戚の来訪や外出行事の際には知人等の馴染みの方の参加があります。職員と通い慣れた美容室や商店に出掛けたり、買い物や散歩の際に知人と会い挨拶を交わし、また家族と自宅や法事、墓参り等へ外出する際にも同行支援をしています。年賀状を出す利用者に葉書きの購入や投函を手伝う等、馴染みの人との関係継続の支援をしています。	

グループホーム 文の里(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立したい時には孤立してもらいながら、共同で生活をその人らしく送っていただけるように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了となった家族様ちはほとんどの場合疎遠になってしまっていますが、何人かのご家族様はご連絡を下さっております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	どういう風に生活を送りたいかを聞き取りをしたり考えてケアをしていくように努めています。	入居時に自宅や病院、施設等に訪問して生活歴や身体状況、趣味、嗜好、思いや意向を聞きアセスメントシートに記入して職員間で共有しています。入居後は日々の関わりの中で利用者から聞いた思いや希望はケース記録に記入し、思いや意向の把握が困難な場合でも家族に相談したり、職員間で本人本位に検討し思いの把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様やご家族様に話を聞くようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状態が常に変化していく中で、見逃さないようにスタッフで話をしながら対応していけるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画やモニタリングについては正直皆さんの部分もあります。	アセスメントを基に作成された介護計画は3か月毎に計画作成担当者が中心となりモニタリングを実施し、6か月毎の見直しを基本とし、利用者の状態に変化があれば随時見直しも行っています。計画の見直し時には再アセスメントを行い、サービス担当者会議を開き基本的に事前に聞いた家族や医師等の意見を反映し介護計画を見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に関してはできるだけ細かく記載するようにしていますが、記入漏れが多いのも現実です。		

グループホーム 文の里(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	発想の転換ができる場合もあるし、スタッフの知識・能力不足でできないときもあります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の喫茶店に行き気分転換をしてもらえようなお店を何か所かは確保できています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を施設として協力していただいている医療機関をもちながら入居者様を尊重してその人の兼ねてからのかかりつけ医がある場合はその医療との関係を築けるようにしています。	入居時にかかりつけ医を継続するか協力医の往診を受けるか選択してもらい、かかりつけ医は家族の対応で受診に必要な情報は家族や医師へ口頭で伝えています。2箇所ある協力医の往診は月2回あり、緊急時は24時間連絡可能な体制です。訪問看護師の健康管理を週1回受け、専門医は協力医に紹介状をもらい家族や職員の対応で受診しています。利用者の状態や希望により歯科医の往診や口腔ケアを受け、協力医の指示書により訪問リハビリやマッサージを受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携医療機関とは協力関係ができており、訪問看護とも協力関係ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	何か所かは入院先にも、実際入院したことを踏まえて関係性ができてきていると思います。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	1年に1回程度でご家族様とは緊急時の対応や終末期の対応についてその時のご意見をお伺いするようにしています。	入居時に指針を基に事業所の看取りの方針について説明し同意をもらい、利用者の状態が進んだ際には医師の判断をもらい再度意向を確認し、家族や職員、医師と話し合い体制を決めています。家族からも宿泊や面会を増やしてもらう等の協力体制を築きながら支援に取り組んでいます。利用者の状態に応じて家族や医師と話し合いながら支援に取り組み、看取りを終えて振り返りを実施しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員までとはほど遠いです。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を定期的に行っており、消防隊とも相談させていただいております。	年2回それぞれ昼夜想定で、内1回は消防署立会の下、利用者も参加して通報や避難誘導、消火器を使用した訓練等を実施しています。訓練の中でシーツを利用して簡易担架を作ったり、消防署立会い時には次回の訓練に向けての課題を確認しています。食料は3日分を常備し、水の備蓄もしています。	地域との協力体制に向け、訓練開催時には地域の方の協力が得られるよう近隣の方へ訓練の案内や参加を呼びかけられてははいかがでしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	引き続きスタッフによっては尊重するというような言葉にまで至らない対応をしていることもあり、改善をしているところです。この2年で個別に話をする中で改善できてきていると思います。	法人で接遇マナー、人権についての研修を受け、職員は知識を身に付けています。利用者を人生の先輩として敬いながらの対応を心掛け、不適切な言葉かけや対応等が見られたらがあればその都度注意しています。家族の意向も踏まえて利用者に応じた声かけを行い、排泄時の声かけは声の大きさにも注意し、希望に応じて同性介助にも対応しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	もっとも大事にしなければならないことなので、そこはスタッフにも何よりもまず話している部分ではあります。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	つい職員側の都合になっている時もあるのでスタッフ間でも話をして改善に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	そこまでは手が行かない部分になっているのが現状です。なのでたまにはという表現でしかできていません。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個別でお好きなものを食べてもらえるように、預かっているお小遣いから用意させてもらっています。	業者から献立と食材が届き、事業所で利用者も材料を包丁で切ったり、味付け等出来る事に携わりながら作り、職員も同じ物を一緒に食べています。その日の希望にそって利用者の好きな食べ物を買いに出掛けたり、喫茶店や回転寿司等への外食の実施や行事食として鍋料理を作ることもあります。朝食にフルーツを出したり、カステラ等のおやつを作る等、食べることが楽しいものとなるように支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じて行っています。		

グループホーム 文の里(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行いながら週に1回訪問歯科で口腔ケアをしていただいています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の自立が困難になっている方が多いので時間を決めてトイレの声掛けをしています。	排泄チェック表を記録し利用者個々のパターンを把握し、様子や仕草も見ながら声かけやトイレへの案内をしています。利用者に応じた排泄支援を継続することで、出来るだけ排泄状況を維持できるように努めています。利用者に個々に適した排泄支援の方法や排泄用品の種類は日々職員間で検討し、排泄の自立にむけた支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトや食物繊維をとってもらうことから始まり、その人にあった便秘改善の薬も処方していただいております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に3回を基本にして本人様のペースでお話させていただいており、体調面を踏まえて週2回になっている方が多いです。	入浴は利用者の状況に合わせて週2~3回となるように日中の時間帯に支援し、利用者の希望により毎日や夜間の入浴も対応可能です。拒否がみられる時は足浴をしたり、日時を変える等声かけを工夫して無理なく入浴してもらっています。湯は一人ずつ入れ替え、金柑湯をしたり肌に合ったシャンプーを用意する等、ゆっくりと気持ちよく入浴出来るように支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人に合わせています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ全員が周知しているとは到底いえませんが、なぜこの薬が必要なのかを個別で説明するようにしております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	支援できていると思います。		

グループホーム 文の里(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	そのようにしたいと思っておりますが、外出の機会が減ってしまっているのが実際のところ です。	日常的な外出支援を心がけ毎日散歩に出掛ける利用者もおり、喫茶店に行ったり外でおやつを楽しむ利用者もいます。初詣や桜の花見、紅葉狩り等の季節に応じた外出行事も実施し、近隣の公園で梅や桃、蓮の花を見て楽しんだり個別で外食に出掛ける等、出来るだけ外出の機会が持てるように支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はほとんどの人がその能力を失っておりこちらで管理させて頂いております。数名できる方にはお金の管理もしていただいております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がしたいという訴えがあった場合は、家族様に了解の上電話をしていただいております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあわせた飾り付けをおこなっており、季節感をもって生活していただくようにしております。	生花を飾ったり、習字や季節毎に利用者と職員で作る貼り絵等の作品を掲示して季節が感じられる明るい雰囲気を作っています。利用者同士の関係性に配慮してテーブルや椅子を配置し、廊下にソファを置き一人で過ごせるように工夫しています。利用者の体感を聞きながら室温管理に気を配り、毎日換気や利用者もほうき掛け等出来る事に携わりながら掃除を行い清潔を保ち快適な共用空間を作り努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファをおいて少し離れた空間を作っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様のご家族様のお写真などを飾っています。	入居時に馴染みの物を持ってきてもらうよう説明し、テレビや棚、椅子、ぬいぐるみ、大切にしている家族の写真等を持ち込み家族が設置しています。携帯電話やDVDプレーヤー等を持ち込み楽しんでいる利用者もおり、マットを敷きその上に布団を敷き休むことも可能です。換気や随時掃除を行い清潔保持に努め、その人らしく快適に過ごせるよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	御本人様らしく生活できるように居室内にマットをひいて転倒のリスクを承知の上で自由に歩いていただいております。		